

《旧RD最終処分場二次対策工事 工事情報 第54号 をお知らせいたします》

作成日：平成27年3月2日

日付	施工実績							施工予定														備考		
	平成27年2月							平成27年3月																
	月	火	水	木	金	土	日	日	月	火	水	木	金	土	日	日	月	火	水	木	金		土	日
工種・作業内容	23	24	25	26	27	28	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
廃棄物土・有害物掘削工																								
①選別土仮置・盛土工	仮置土移動																							
廃棄物選別工																								
②選別処理工	一次選別																							
	機械選別																							
	設備工																							
汚染地下水拡散防止対策工																								
③モニタリング設備工	モニタリング井戸設置工																							
仮設工																								
④工事用道路																								

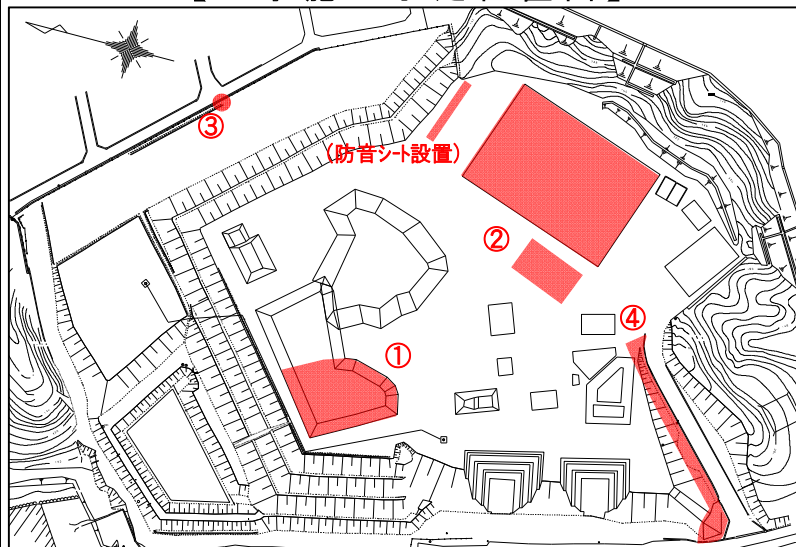
現場見学会

休
工

休
工

休
工

【工事施工予定位置図】



【工事施工状況写真】

撮影日：平成27年2月27日



② 選別処理施設工

仮設テントの廃棄物土投入扉に樋を設置しています。



② 選別処理施設工

手選別作業員へ風を送るための「風管」を設置しています。



③ モニタリング設備工

観測井戸H25-S2(2)をエアリフトで洗浄しています。

【お知らせ】

2月23日の現場見学会へ多数のご参加ありがとうございました。

《騒音・振動・粉じん・臭気自動計測の週間結果報告》

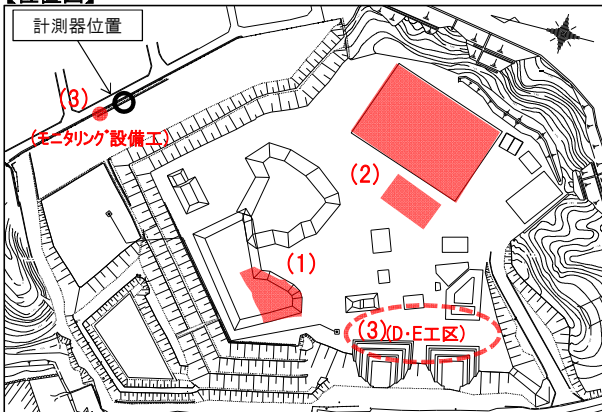
(報告対象期間:2月20日~2月26日)

【概要】

二次対策工事による周辺環境への影響を調査するために、旧RD最終処分場と隣接する住宅地との境界に計測器を設置し、「騒音・振動・粉じん・臭気」を連続自動計測しています。

各項目の1週間分の計測結果をグラフにしました。
※網掛け部は休工の時間帯(休日および夜間)です。

【位置図】



【測定値管理基準】

	騒音	振動	粉じん	臭気
第1管理値	基準値の90%	基準値の90%	基準値の90%	10(センサー値)
第2管理値	基準値	基準値	基準値	参考値
基準値	85dB 栗東市の特定建設作業(騒音)に係る規制基準	75dB 栗東市の特定建設作業(振動)に係る規制基準	0.2mg/m ³ 環境省『大気汚染に係る環境基準』の「環境上の条件・浮遊粒子状物質」記載基準	10(硫化水素臭などの臭気) 草津市「臭気指数規制基準 第1種地域 敷地境界線(第1号)」記載基準

第1管理値を超過した場合

騒音 振動 粉じん	作業を一旦中断し注意喚起した後、警戒しつつ作業を行います
臭気	作業を一旦中断し、現場の監督員が直接臭いを確認します

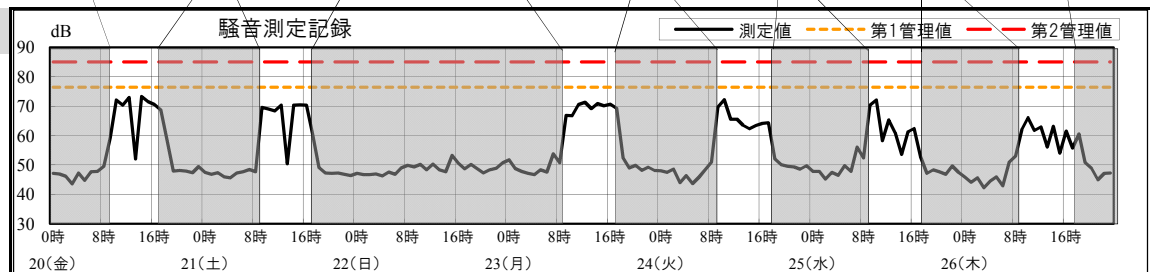
第2管理値を超過した場合

騒音 振動 粉じん	直ちに作業を中断し、周辺7自治会長に連絡し原因究明後、対策を講じ作業を再開します
臭気	臭いの確認により硫化水素臭などの臭気があった場合には、直ちに作業を中断し、周辺7自治会長に連絡し対策を講じたうえで作業を再開します

主な実施作業内容	平成27年2月						備考
	20 金	21 土	22 日	23 月	24 火	25 水	
廃棄物土・有害物掘削工			休 工				
(1)選別土仮置・盛土工 仮置土移動							
廃棄物選別工							
(2)選別処理施設工		機械調整				選別施設改良	
汚染地下水拡散防止対策工							
(3)事前調査ホーリング工 モニタリング設備工	D・E工区					観測井戸H25-S2 H25-S2(2)	

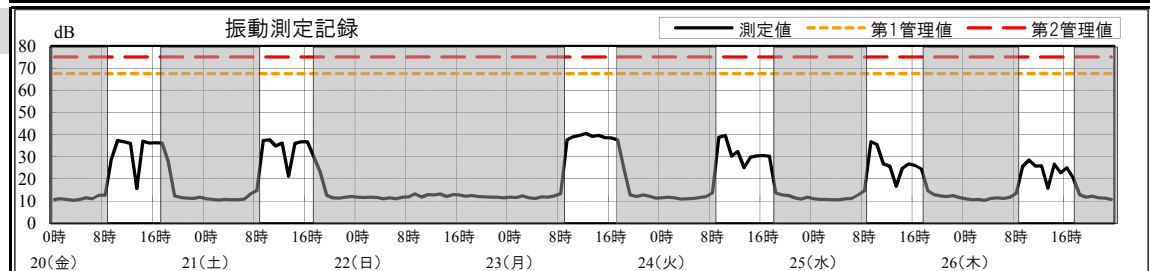
【騒音】

騒音値が70dB近くまで上昇しています。これは、計測器のすぐ近くで、モニタリング井戸の設置工事による作業音が影響しています。



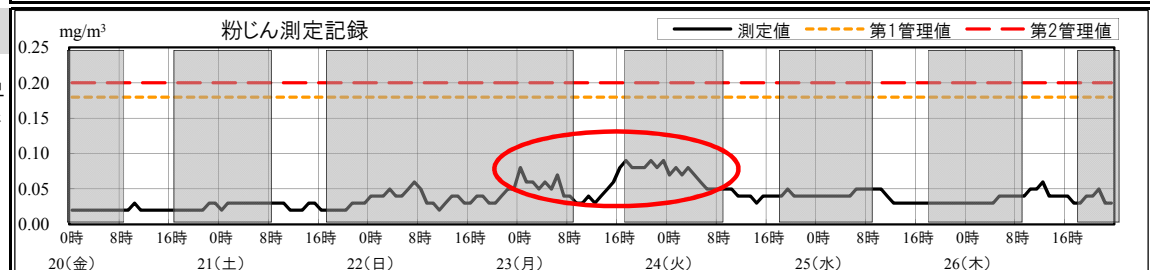
【振動】

(特になし)



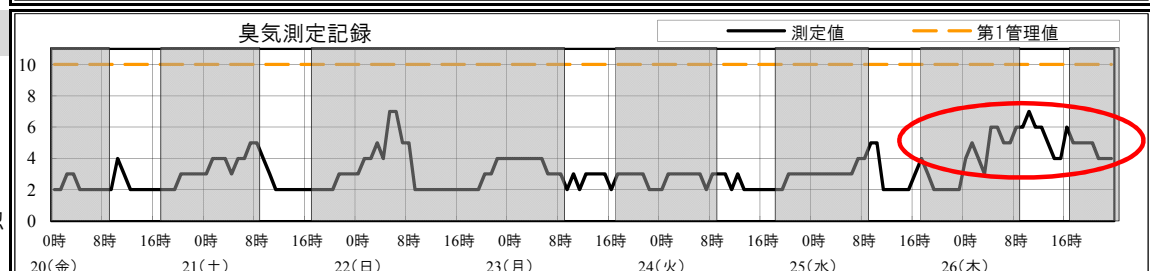
【粉じん】

工事作業時間外に粉じんの測定値が上昇しています。これについてはPM2.5による影響も考えられます。



【臭気】

26日0時から9時の間、値が上昇しています。この間は南南西から東南東の風が吹いており、これらの湿った空気により上昇したと考えられます。なお、値が上昇した後は雨が降っていました。



今後も、高い値を観測した際は、現地確認を行い、天候との関係を注視していきます。